

個別目標 2-2 | 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

施策 2-2-3

国際都市として交流を育みます



【10年後のめざす姿】

- 大田区内を訪れる外国人が増加し、言語や文化等にも配慮した、親しまれるまちになっています。

【10年後のめざす姿にどれだけ近づいたかを測るモノサシ(指標)と目標値】



モノサシ(指標)	現 状	25年度	30年度
国際交流が進んでいると感じる区民の割合(%)	—	15%	25%

【現状と課題】

大田区では、これまで国際化推進を掲げ、国際交流を進めるための様々な事業を展開してきました。

一方、今後は羽田空港の国際化が進むことにより、大田区に諸外国から訪れる外国人がさらに増加するものと考えられる中、すべての人に開かれたまちとしての役割を発揮することが求められています。

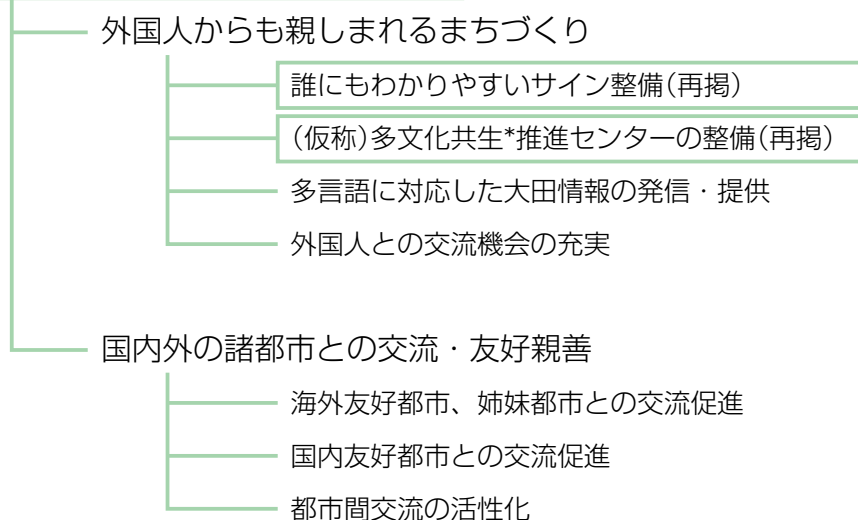
そのためには、受入れ体制の充実を図り、訪れる外国人が不自由なく回遊できるまちとなることが必要です。あわせて、諸外国から大田区を訪れる人それぞれに即した対応ができるように、多様な言語や文化に配慮した生活機能の整備を高めることが重要となります。

また、日頃からお互いの国の歴史や文化等を理解する取り組みや区内に住む諸外国の人々、大田区の国内外の友好都市、国外の姉妹都市との交流により、相互理解を深める取り組みがこれまで以上に重要度を増しています。

【 施策の体系 】

枠で囲んである事業は、その主な取り組み内容を次ページ以降で紹介しています。

国際都市として交流を育みます



【 施策の方向性と主な事業 】

①外国人からも親しまれるまちづくり

大田区を訪れる外国人や区内に暮らす外国人に親しまれるまちとなるため、諸外国の文化、多言語化にも配慮したまちの機能の充実を図ります。

計画事業名	誰にもわかりやすいサイン整備(再掲) →詳細は、P68を参照してください。
計画事業名	(仮称)多文化共生推進センターの整備(再掲) →詳細は、P157を参照してください。

②国内外の諸都市との交流・友好親善

国際交流を進める上で、欠かすことのできない相互理解を深めるため、多様な文化を持つ諸外国、国内他自治体との多彩な交流活動を推進します。

海外友好都市との交流事業

